

牛久：学校周辺に見る自然

第4号 ひたち野うしく小学校

2018年4月22日発行

＜ 春の学校周辺で生きもの観察 ～④校庭や駐車場にいた動植物たち＞

今回は、ひたち野うしく小3年生と歩いた日に私が校庭などで観察した生きものたちを紹介（しょうかい）します。



イロハモミジの花（左上）。そこには、枝でアブラムシを食べたり交尾するナミテントウ（右上）もいた。花には、みつを吸うハチ（左下）や花粉をなめるルリイロナガハナアブ（右下）などいろいろな昆虫がやって来る。

校庭では、イロハモミジがまだ咲き残っていました。みどり色の小さな実ができて始めているものもたくさん見られましたが、残った花にはハナアブのなかまや小さなハチが来て、みつや花粉を食べていました。新しい枝にはアブラムシがついていますが、それをナミテントウが食べていて、中には交尾しているものも見られました。



水辺の塔のそばには、ローズマリーが植えてありますが、その花ではセイヨウミツバチが数匹でみつを吸っていました。頭を突っこんで、花粉だらけになっていました。チョウのなかまが来て、みつを吸っていることもあります。この花もシソ科のなかまですが、葉をもむとどんなにおいがあるでしょう？

ローズマリーのみつを吸う、セイヨウミツバチ。



新館しんかんのまわりには、どんぐりのなるクヌギの木が植えてありますが、そこに実みのような変へんなのがついていることに気がついている人も多いでしょう。どんぐりではありませんね。ひものようなのがぶら下がっているのは、おすの花です。じつはクヌギハナカイメンフシくぬぎはなかいめんふしといって、クヌギハケタマバチという小さなハチそうしゅんが早春におすの花の集まりあつに産卵さんらんしてできた「虫こぶ」なのです。

クヌギハナカイメンフシ（虫こぶ）。



教室棟前きょうしつとうまえのムラサキハシドイ（左：ライラックともいう）。東側フェンス沿いのドウダンツツジ（右）。



教室棟前きょうしつとうまえには、むらさき色のムラサキハシドイの花が咲いて、ハチがみつを吸いに来ていました。フェンス沿いのドウダンツツジも、たくさんの花をぶら下げて、あまい香りかおを漂ただよわせていました。こちらには、マルハナバチのなかまがよくやって来ます。



教室棟前きょうしつとうまえのリンゴの花（左）と、そのみつを吸うヒメハラナガツチバチのめす（右）。



同じく教室棟前きょうしつとうまえには、リンゴの花も咲いていました。私は知らないのですが、これは新館しんかんわきに

植えられていたものでしょうか？ミツバチやヒメハラナガツチバチがきて、みつを吸すっていました。花粉かふんを食べる、コアオハナムグリも見られました。

ビオトープの方に行ってみると、ハクセキレイいけが池いけで水浴みずあびをしていました。私に気がつくとロープへ飛とび移うつり、その後、飛とんで行ってしまいました。

ビオトープの池いけで、水浴みずあびしていたハクセキレイ。





プールわきのシダレザクラ（左）と、ハナミズキ（右2枚）。

プールわきのシダレザクラも何とか咲き残って^{のこ}いました。ハナミズキも赤いのと白いのが咲いて^きいました。



うらの^{ちゅうしゃじょう}駐 車 場では、^{かんとう}関東ではめずらしいシロバナタンポポ^きが咲いていました。それとアブラナ^にに似たカラシナ、ギシギシ^はの葉を食べるコガタリハムシ^{ようちゅう}の幼虫も見られました。虫をくわえたモズのめすもいました。【理科支援員：宮内】

シロバナタンポポ(上左)とカラシナ(上中)、ギシギシの葉を食べるコガタリハムシの幼虫(上右)。えさの虫をくわえたモズのめす(下)。